長谷工コーポレーション
ホームページへ

２００８年９月１９日

長谷工の排水管再生工法　「ＨＡＭ－Ｊ工法」
２年間に約１，５００戸で採用！
～専用ホームページで管理組合へ積極提案を開始～

株式会社長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、社長：岩尾　崇）などが開発したマンション共用部排水管の再生工法「ＨＡＭ－Ｊ（ハムジェイ）工法」がこの２年間に約 1,500 戸で採用されました。同工法の耐久性・信頼性に加え、工事騒音が小さいことや、短時間で施工できることなどの特徴がマンション管理組合から高く評価されています。

今年８月には、管理組合からの詳しい資料請求にも対応できる専用ホームページを立ち上げました。今後も当社施工・管理のマンションに限定することなく、管理組合へ積極的に提案を行ってまいります。

【ＨＡＭ－Ｊ工法の採用実績】

採用年月	H18.5	H19.5	H19.7	H19.10	H20.2	H20.6
採用実績（累計戸数）	440戸	560戸	715戸	1,224戸	1,387戸	1,466戸

【専用ホームページアドレス（詳細資料のお申込みもこちらから）**】**

http://www.haseko-hcm.co.jp/gijutu/hamj/index.html

【ＨＡＭ－Ｊ工法の特徴】

●コンクリートスラブを壊さずに更新でき、大掛かりな機械・装置も使わないため工事の騒音・振動を抑えることが可能。
●断水時間は約８時間、配管施工時間は実働２日間と短く、日常生活への影響が小さい。
●排水管の内面・継手部分など、施工状況を目視で確認しながら錆落とし、樹脂ライニング等の施工ができるため、信頼性が高い工法。配管全体を取り替える場合と同等の耐久性。
●コストは、配管全体を取り替える場合と比較して約８０％（当社比）。

［従来工法との比較］

		耐久性	施工中の 日常生活への影響
従来工法	更新工法 （立管取替）	◎耐久性が高い	▲影響が大きい
	更生工法 （立管補修）	▲耐久性が低い	◎影響が小さい
		従来工法の利点を融合	
新工法	HAM－J工法	◎耐久性が高い	◎影響が小さい

【背　景】

マンションのリフォーム市場は、２０１５年には２兆円規模に拡大すると推計されています（※１）。なかでも給水管や排水管など共用部設備のリニューアルへの要望は年々高まってきています。給水管についてはステンレス化などでリフォーム技術は確立しつつある一方で、排水管についてはまだ未成熟なのが実情です。

マンションは、完成して２５年を経過すると一般的に排水管の更生・更新時期と考えられており、概ね来年には築２５年を過ぎたマンションは１４０万戸（※２）になると予測されています。現在、築約２０年を超えるマンションの排水管の材料には、主に亜鉛メッキ鋼管（白ガス管）が採用されていますが、築２５年を過ぎると食べカス・石鹸カス・毛髪・油分などから生じるスライムの影響により配管が閉塞したり、配管自体の腐食から漏水を生じる可能性があります。このため新たに管を更新するか、あるいは更生によって延命させるといったリフォームが大きなテーマになっています。

（※１）「マンションリフォーム市場将来需要推計」（マンションリフォーム推進協議会）から
リフォームニーズの高い築後年数のマンションストックによる推計（基本コース）に加えて、行政施策・施策展開の実現を勘案した場合の市場規模を［拡張ケース］として推計
（※２）国土交通省公表資料を長谷工総合研究所が集計